

「世界青年の船」事業（グローバルリーダー育成事業）の 発展的見直しに向けた主な論点（案）

1 今後の事業の目的について

【グローバル化の一層の進展への対応】

- 事業開始（再編）（1988年）以降、グローバル化が更に進展する一方、青年は内向き志向を強めていると指摘されている。グローバル化に対応した人材育成の観点から発展的見直しを行うにあたって、どのような事業としていくべきか。

【グローバル化に対応した青年リーダー育成の視点】

- 地域等で活躍する青年リーダーの育成を通じて、急速に進展するグローバル化の下での地域等の発展や活性化を支援すること（事業成果の地域等への還元）が重要ではないか。
そのため、地域活動等で活躍しており意欲のある青年について、語学力の不足等をカバーするなど工夫して、事業に参加しやすいようにしてはどうか。

2 事業を通じてどのような能力を養成すべきか

- グローバル化に対応できる青年リーダー（国際的リーダー、地域リーダー）を育成する観点から、どのような能力の養成を重視すべきか。

3 プログラム内容の方向性

【これまでの取組の成果の維持・活用】

- これまでの青年国際交流事業の成果、とりわけ国際化に対応した人材の育成を主眼としてきた「世界青年の船」の成果をどのように活用していくべきか。
- 船事業のもつ「絆」の形成力、人材育成力等を今後の外交、経済、青年育成に一層活用していくべきではないか
- 長年の事業の成果である事後活動組織、ネームバリューの価値を踏まえながら、見直しを行うべきではないか。

【「船」事業の効果】

- 限定的な空間となる船を移動・研修・生活の場として利用することの効果をとどのようにとらえるべきか。
- 国の代表としての意識、共通の対外的な任務・目標をもたせる上でも、外国訪問が必要ではないか。
- 船事業の優れた点を活かし、絆の形成と参加青年の成長の効果を上げるためには、一定以上の乗船期間が必要ではないか。

【具体的なプログラム内容の検討】

- こうした能力を成長させるために、こういった内容のプログラムを実施すればより効果的な事業となるか。

4 外交・民間交流等への一層の貢献

- グローバル化対応の観点からは、人材育成に加えて、外交・民間交流等への一層の活用も検討すべきではないか。
- 外交面の観点からは、船による外国訪問のアピール効果についてどのようにとらえるべきか。
- 在外大使館との一層の連携確保など、事後活動組織の外交・民間交流等への貢献を一層支援・促進すべきではないか。

5 広報、募集、選抜の工夫について

- 限られた予算の中で効果的な広報を行うために、どのような工夫がありうるか。
- 様々なルートで広報を一層活発に行い、多様な属性をもつ応募者から参加者を募集すべきではないか。
- グローバル化が進展する国際社会で活躍できる青年のみならず、地域での活動に積極的に取り組む青年を育成するという観点も踏まえて選抜すべきではないか。